

読売新聞 きょう（1月14日）のイチ押し

一面 新型コロナワクチン 接種間隔を1か月短縮

政府は、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を巡り、医療従事者や高齢者を除く一般と職域接種について、2回目接種との間隔を現行の「原則8か月以上」から「7か月以上」に短縮することを決めました。接種を1か月前倒して、3月から開始します。「オミクロン株」の感染拡大を受けて、前倒しの対象を拡大しました。

- ★施設入所者などを除く一般の高齢者は、既に1か月前倒しして接種間隔は「7か月以上」としていましたが、さらに短縮します。本来は5月以降の接種予定だった人は2か月前倒しで3月以降の開始となります。3～4月の予定だった人は1か月前倒しのままとします。
- ★ワクチンに余裕のある地方自治体には、さらなる前倒しも認めます。前倒し拡大に伴い、厚労省は3月末までに約6500万回分のワクチンを配送すると発表しました。これまで約4800万回分としていましたが、製薬会社との交渉で調達時期を早めました。

一面・二面 第三者精子で体外受精へ…都内のクリニック

第三者の精子を使った体外受精を、東京都内のクリニックが4月にも開始します。生まれた子どもに、精子提供者の情報の一部開示を国内で初めて行います。不妊に悩む夫婦の選択肢を広げ、子どもの「出自を知る権利」を保障する狙いがありますが、提供者情報の管理には課題もあります。

実施するのは「はらメディカルクリニック」（渋谷区）。対象は夫が無精子症で6回以上の人工授精でも出産できなかったなどの夫婦。夫婦には妊娠後に提供者の職業などを伝え、生まれた子が18歳以降に希望すれば提供者が電話や面会などに応じます。専門家は「民間が独自に行うのは情報管理に懸念が残る。国は早急に法整備を進めるべきだ」と指摘しています。

他紙と比べて

阪神大震災が起こった1月17日が近づいてきました。社会面で、震災で犠牲になった兄のランドセルを背負って小学校に通った少年が、20歳になるのを機に「命の重み」を伝えていくことを誓った物語を掲載しました。減災に焦点を当てた特別面（20頁）も制作しました。1・17へ向け、さまざまな角度から「阪神大震災27年」を伝えていきます。